

## 令和6年度 「よ～しの日」

目の前の家族に「思いをはせること」、「知ろうとすること」

---

白百合女子大学 発達心理学科  
堀口康太

「かわさき」という地域でくらししてきたほりぐちです。

川崎市多摩区で生まれ育ち、川崎で仕事をしてきました。

中野島幼稚園→東生田小学校→柘形中学校

児童相談所→区役所→児童相談所→川崎市役所

今日は、私のことを育ててもらった「かわさき」のためにお返しする時間にしたいと思っています。

短い時間ですが、どうぞよろしく願いいたします。

## 今日の私の話の位置づけ

多様な家族の経験に思いをはせていただき、グループワークを行うための「マインドセット(心の枠組み作り)」をしていただくことです。

【そのためにお話しさせていただくこと】

1. 里親という家族の経験、思い

2. 誰しもが「固有の経験」をしている「ふつう」の家族

# 1. 里親という家族の経験、思い

---

## 里親という家族は、特有の経験をする「ふつうの」子育て世帯

※ かわさき里親支援センターさくら  
資料を参考に作成

### 里親ならではの特有の経験をする側面

- 生い立ちの授業?どうしよう...
- 実親との交流ってどうすれば...?
- 子どもに真実をどう告知するかどうか悩む...

### 地域の子育て世帯の多くがする経験をする側面

- 保育園どうしよう、小学校でうまくやれる?...
  - 子どもが病気になった...
- 子どもを遊ばせる公園はどこにあるのかな...
  - 子どもがいうことを聞かないんです...

## 里親の方々は実際にどんな思いを持っているの?①

Aさん:「養子縁組なんてすごいですね!」

縁組里親さん:「...」

- 別にすごいと思われたいからやっているわけではない。里親であることを特別視しないでほしい。
- 「ああ、そうなんですね」くらいにフラットに接してほしい。



「特別視」されることを避けるために、里親であることをはぐらかすこともある(「産院はどこ?」、「出産立ち会いました?」)。

(どんな人にでも他人に言いたくないことの1つや2つはある)

## 里親の方々は実際にどんな思いを持っているの?②

Aさん:「子どもなんてみんな一緒よ!」

縁組里親さん:「...(一緒にされるのも...)」

- 「産んでいない」、「立ち会っていない」、「ハイハイより前のことを知らない」...里親固有の経験もある。

→そういう「固有の経験」をしっかり聞いてもらう、理解しようとしてもらいたいというニーズがある。



「固有の経験」を知り、知ってほしいという思いはあるが、それが全体であるかのようにみるのではなく、「ふつうに」関わること」

「里親さん」ではなく、「〇〇さん」としてかかわること。

## だから、子どもの人生の1ページを共にする私たちは...

- 里親という固有の経験を過大視、特別視しないこと。  
→「すごいですね」といったステレオタイプで判断しないこと。
- 里親という「固有の経験」にじっくり耳を傾け、それを知ろうとすること。  
→実親と全く同じ経験だとは思わず、その人(親)の人生に耳を傾けること。
- そのうえで、「一人の親」としてふつうに接すること(里親だからではなくて)



「固有の経験」を知り、「固有の経験をしているその人・その家族(ふつうの家族)」としてコミュニケーションをとることができるようはず。



## 2. 誰しもが「固有の経験」をしている 「ふつう」の家族

---

## 誰もが「固有の経験」をしている「ふつう」の家族①

今日、お越しの方みなさんそれぞれが他の人はしていない「固有の経験」をお持ちだと思えます。

私が子どもの病気で訪問看護を利用していた時に...

「心臓病の子」は、背中に汗をかきやすい...

→「うちの子」として見てくれていないと思いました。

「固有の経験だけ」でみなさんのことを判断されたとしたら、どんな気持ちができるでしょうか...

## 誰もが「固有の経験」をしている「ふつう」の家族②

みなさんの「固有の経験」を地域の人に話す機会があるとしたら...

ある地域の方（上の姉や兄のことを知っている人）とのやり取りの中で...

「〇〇ちゃん、今、何歳なんですか？」

私は、聞かれ方から「年齢の割には身長が小さい」ととらえたので...

（病気があるという背景をどうしても考えてしまうので）

「うちの子、心臓病なんですよ」と伝えました。

相手の方は、単純に「何歳か知りたかっただけ」かもしれないですが...

みなさんが「固有の経験」を話す立場だったとしたら、それをどんな風に聞いてほしいですか？

地域のみんなでかわさきに「ふつう」に「くらす」、「しあわせ」を

「福祉」は、それを専門に仕事にしている人たちだけで成り立っているわけではありません。

なぜなら...「福祉」は...

→「ふつう」に「くらす」、「しあわせ」だから

(20年以上前に登戸東通り商店街でみた何かのチラシが元のアイデア)



「ふつう」に「くらす」、「しあわせ」は地域のみんなで実現できる

## 固有の経験をしているふつうの家族としてかかわること

「うち里親なんですよ」

「うち縁組なんですよ」

「うちには医療的ケア児がいるんですよ」...

と言っても、傷つかない安心・安全な「かわさき」にしたいですよね。

そのために...

目の前の家族の「固有の経験」を知ろうとすること、

「その人、その家族」としてかかわり、

共に「ふつう」に「くらし」、「しあわせ」を感じることに。

この後のグループワークでそれをぜひ体感してみてください!!